

高速増殖原型炉もんじゅの２次系ナトリウム漏えいについて

平成７年１２月１５日
動力炉・核燃料開発事業団

1. 発生日時 平成７年１２月８日（金） １９時４７分
2. 発生場所 動力炉・核燃料開発事業団 高速増殖原型炉もんじゅ

3. 現 状

高速増殖原型炉もんじゅで２次系（Ｃループ）のナトリウム漏えいが発生したことにより、原子炉を手動停止した。さらに、補助冷却設備による冷却を行い、プラントを低温停止状態へ移行させた。２２時４０分に漏えいが発生した２次主冷却系Ｃループの配管内のナトリウムをドレンする操作を開始し、１２月９日０時１５分にドレンを完了した。その後、２次主冷却系室全体（Ａ、Ｂ、Ｃ内各ループ）の状況確認を行った結果、酸化物ナトリウムのエアロゾルは２次主冷却系Ｃループの各室及びＢループの一部の室に飛散していた。

また、当該配管室内の漏えいナトリウムのエアロゾルが鎮静化したことから、ナトリウムの除去のための詳細調査対策を行うため、１２月１１日９時３９分より１次主冷却系（Ｃループ）のドレンを開始し、１２月１２日１２時５８分終了した。一方、２次主冷却系（Ｃループ）の当該配管以外の系統機器（蒸気発生器、中間熱交換器）等の残留ナトリウムのドレン作業を１２月１２日１０時５分より開始し、１２月１３日２０時５５分に終了した。

更に、これと並行して特に漏えい箇所下部の床面に堆積した酸化物ナトリウム等の除去・回収作業の準備として、堆積物のサンプリング及び分析作業を行った。

１２月１４日より、この結果に基づき除去・回収作業のための、堆積物の潮解対策やアクセスルートの確保作業を行い、除去・回収作業を開始した。

4. 今後の対応

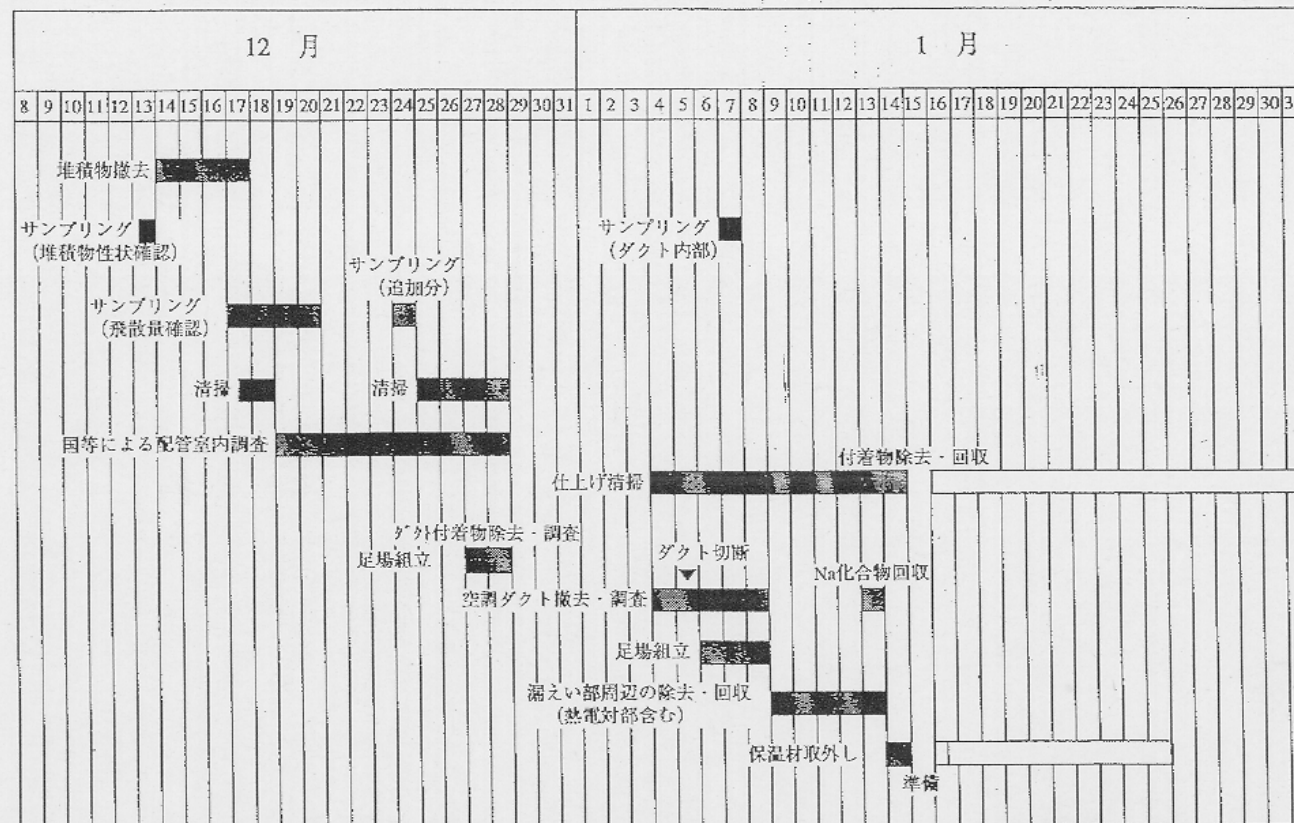
今後は、ナトリウム漏えいが生じた２次主冷却系室（Ｃループ）当該室の堆積物、沈降した酸化ナトリウムエアロゾル等の除去・回収作業が終了後、原因究明のための当該部の保温材撤去を行う。

考えられる原因調査のための技術的な検討を並行して実施するが、特定については、漏えい箇所の状況確認と評価を踏まえて行うこととする。

以 上

平成8年1月16日

2次主冷却系ナトリウム漏えい事故の原因調査のための準備作業（配管室内）



注] 12/29～1/3 : 運転直員によるプラント監視、現場パトロールを行う

■ : 実績
□ : 予定